学習指導案　略案様式（特別の教科　道徳を除く）

５年１組	指導者	○○○○	教科等	算数科

単元

単元名等	速さ	
目標	**評価規準**	**※どちらかを選択し、　　で囲ってください。**
知識及び技能	**知識・技能**	○速さの意味及び表し方について理解し、それを求めることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	**思考・判断・表現**	◆速さの関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすことができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	**主体的に学習に取り組む態度**	○速さに着目し、単位量あたりの大きさを用いて比べることのよさに気付き、生活や学習に活用しようとするようにする。 ○単位量あたりの大きさを活用できる場面を身の回りから見つけようとするようにする。

単元の学習展開（全６時間）

導入	□単元の学習計画を確認し、学習の見通しを持つ
展開	□数学的活動を通じて、速さについて理解し、その表し方を考察する ・速さ（時速）について理解し、それを求めることができるようになる ・速さに複数の種類があることを知り、それを求めることができるようになる ・３つ以上のものの速さを比べたり、いつでも比べられるようにしたりする方法を考察する
終末	□単元全体を振り返り、速さについて分かったことやもっと知りたいことをまとめる ・単位量あたりの大きさを活用することの有効性に気付き、身の回りからその場面を探そうとする

本時（４／全６時間）

ねらい	速さを表す３つの単位時間について、日常生活で出会う事象を基に、それぞれの単位時間での捉えやすさを比較することによって、目的に応じた単位時間を考えることができるようにする。 （下線部…単元の評価規準との関連**【◆思考・判断・表現　ノートの記述】**）
学習過程	「めあて」 「速さのいろいろな種類について考えよう」 『課題』 『なぜ、速さには複数の種類があるのだろうか』
	『まとめ』 『求めるものによっては、分速や秒速で表した方がわかりやすい場合がある』 「振り返り」の視点 ・今日の学習から疑問に思ったことことやもっと知りたいこと

努力を要する状況の児童生徒に対する手立て	【予想されるつまずき】	【必要な支援・手立て】
	道のり÷時間が速さとなる関係を捉えることが難しい	時計で１分や１秒の量感をつかませ、グラウンドや廊下などの具体物の長さの関係を速さで捉えさせる
	商が小数となる計算が定着していない	計算が複雑な場面では電卓等を使用させる
	集中の持続が難しい	プリントの配付など、離席できる場面を設定する